

教員名	杉田 孝夫 (SUGITA Takao)
所 属	生活科学部人間生活学科生活社会科学講座
学 位	文学修士 (1978 東京教育大学)
職 名	教授
URL/E-mail	http://www.soc.ocha.ac.jp/Site/A3EB7B9B-7F0D-4281-9108-02D75C42957A.html sugitats@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

ドイツ啓蒙およびドイツ観念論 / 政治思想 / 自由 / 共同性 / 家族

◆主要業績

総数 (4) 件

- ・「カントとフィヒテの歴史認識における政治的なもの」
『フィヒテ研究』(日本フィヒテ協会) 第 13 号, 晃洋書房, 2005 年 12 月, 25 頁—39 頁所収
- ・「ヘーゲル家族論の現代的意義」
『ヘーゲル哲学研究』(日本ヘーゲル学会) 第 11 号, 2005 年 12 月, 97 頁—106 頁所収.
- ・「政治思想としての精神現象学」
日本ヘーゲル学会主催・フンボルト財団後援 日本におけるドイツ年 200/2006
日独哲学シンポジウム「精神現象学 200 年」第 2 セッション「ドイツ観念論と精神現象学」での報告
2006 年 3 月 26 日, 法政大学

◆研究内容

ドイツ啓蒙とドイツ観念論の政治思想史研究

(1) とくにカント、フィヒテ、ヘーゲルの政治思想の諸問題をかれらの共通枠組みである「自由と共同性」の位相を同時代的文脈の中で再検討し、その歴史的固有性を明らかにする作業を行っている。

(2) 第二の主題として、カント、フィヒテ、ヘーゲルの家族観を、ドイツにおける「近代家族」の形成過程を示すテキストと捉えて、家族の構成と機能を分析し、同時代の社会構造の転換とどのように構造的に連関するものであるかを明らかにする作業をおこなっている。この作業は必然的に家長のものと近代家族と家長を主体とする近代社会の構造的秘密を明らかにするものであり、近代におけるジェンダーの思想的作為性と歴史性を明らかにする作業でもある。

(3) 以上の二つの側面からの研究によって現代社会における自由と共同性をめぐる問題状況を克服する理論的展望を得ることを目指している。

◆教育内容

基礎講義「政治学入門」では、市民のための政治学という観点から、新入生を対象に、現実の政治過程を事例に取り上げて、それを手掛かりに政治の意味、メカニズム、機能をできるだけ分かりやすく、講義する。

「生活政治学 I」「生活政治学 II」では第 2 学年を対象に、現代デモクラシーの主体である生活者市民にとって必要な政治学の基礎理論を講義する。

「政治とジェンダー」は 3 年次を対象に、ロック、ルソー、ウルストンクラフト、カント、フィヒテ、ヘーゲルを材料にして、近代社会の政治理論の形成展開過程をジェンダー構造の形成展開過程の同時性を明らかにするとともに、近代の政治的ジェンダー構造克服するための条件を検討する。

「比較家族思想史」は 3 年次を対象に、カント、フィヒテ、ヘーゲルの家族観をテキストに即して検討し、ドイツにおける近代家族の形成展開過程を明らかにする。

◆Research Pursuits

I am chiefly interested in the intellectual history of modern Europe, and with this area I specialize in two related fields. One is the political thought of Modern Germany, especially German Enlightenment and German Idealism. The other is the genesis of Modern Family concept in Germany.

◆Educational Pursuits

I lecture on Scope and Theory of Political Science, and on the foundation of Modern Civil Society and Family, and run two seminar. One is for the Theory of Civil Society (in undergraduate senior course) and another for intellectual history of Europe (in postgraduate course).

I have supervised Intellectual History in Modern Europe as well as in Modern Japan. I am also interested in the questions of the public and the private and gender, which are new perspectives in politics.

◆将来の研究計画・研究の展望

ドイツ啓蒙の思想家のうち、ヤコービとフンボルトの政治思想、およびフンボルトのジェンダー論については、18世紀ドイツ思想を理解するうえで重要な対象であるにもかかわらず日本ではまったく手つかずの状態にある。ドイツ観念論の政治思想史研究に一区切りついたならば、ヤコービとフンボルトの研究を行いたい。

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

- ・ドイツ啓蒙とドイツ観念論の政治思想
- ・政治とジェンダー
- ・市民社会論

◆受験生等へのメッセージ

政治学は古来教養の学として長い伝統を築いてきました。近代以前においては統治者の教養の学あるいは統治の技術でした。政治学は役人や政治家になるための学問であるという見解が生まれた原因はそのような伝統に起因します。しかし統治者＝被治者の時代であるデモクラシーの現代においては、政治学はまず第一にすべての市民の教養の学でなければなりません。

政治の世界は、人間が生きている間は絶えず試され、問い続けなければならない実践知の世界です。そのように考えると私たちはいつでもどこでもなんらかの政治のただ中の中にいることに気づきます。人生は、そこで得られる疑問や経験を手掛かりにして「善く生きる」ための知の探求の旅です。政治学はそのような旅の指南書の一つと言えます。